

羽生市市民意識調査報告書

【概要版】

令和3年3月

羽 生 市

《目 次》

I.	調査の概要	1
1	調査目的	1
2	調査の方法	1
3	調査項目	1
4	報告書をみる際の注意	2
II.	対象者の基本属性	3
1	性別	3
2	年齢	3
3	職業	3
4	居住年数	3
5	居住地区	3
III.	調査結果の概要	4
1	市の住み心地について	4
2	市の取り組みなどについて	5
3	コミュニティについて	7
4	市の将来像について	8
5	市の特徴について	9
6	福祉・リサイクル・交通について	10
7	医療・防災・防犯について	12
8	選挙について	14
9	教育・スポーツについて	15
10	人権・男女平等について	16
11	商業・産業について	17
12	全般的なまちづくりについて	17
IV.	調査結果のまとめ	21
1	市の住み心地について	21
2	市の取り組みなどについて	21
3	コミュニティについて	22
4	市の将来像について	22
5	市の特徴について	22
6	福祉・リサイクル・交通について	23
7	医療・防災・防犯について	23
8	選挙について	24
9	教育・スポーツについて	24
10	人権・男女平等について	25
11	商業・産業について	25
12	全般的なまちづくりについて	26

I. 調査の概要

1 調査目的

本調査は、市政に対する市民の意見や要望などを幅広く把握し、市民の声を市政に反映するとともに、過去の市民意識調査との比較により、市民ニーズや市民の考え方の動向などを把握し、これからのまちづくりを行ううえでの基礎資料とするために実施しました。また、平成30年（2018）度から令和4（2022）年度を計画期間とする第6次羽生市総合振興計画・前期基本計画の検証をする際の資料としても活用します。

2 調査の方法

- 調査対象：市内に在住する18歳以上の市民
- 標本数：2,500人
- 抽出方法：住民基本台帳より地区別、無作為抽出
- 調査方法：郵送法（郵送による配布・回収）
- 調査期間：令和2年11月20日（金）～12月11日（金）

3 調査項目

①市の住み心地について	問1：住み心地／理由 問2：定住意向 問3：住み続けるために必要なもの
②市の取り組みなどについて	問4：広報はにゅうの閲読 問5：ぎかいだよりの閲読 問6：自治基本条例の認知度 問7：計画づくりへの参加意向 問8：電子申請・届出サービスの利用 問9：市政・市役所に対する印象
③コミュニティについて	問10：近所付き合い 問11：行事への参加 問12：ボランティア活動／理由
④市の将来像について	問13：市の将来像 問14：市の将来像のアイデア
⑤市の特徴について	問15：全国PRに有効なもの 問16：好きな場所・景色／理由
⑥福祉・リサイクル・交通について	問17：生きがいのある老後 問18：子育て支援に期待すること 問19：家庭ごみ削減に必要なこと 問20：交通 問21：最終電車時刻
⑦医療・防災・防犯について	問22：かかりつけ医 問23：かかりつけ歯科医 問24：かかりつけ薬局 問25：医療費 問26：健康診断／理由 問27：家屋の耐震状況 問28：火災警報器 問29：避難所の認知度 問30：ハザードマップの認知度 問31：マイ・タイムラインの作成状況 問32：災害時の備え 問33：防犯対策 問34：犯罪防止策
⑧選挙について	問35：投票率の低い理由 問36：投票率を上げる方法
⑨教育・スポーツについて	問37：学校の再編／理由 問38：学校教育について 問39：市内の学校との連携 問40：おうち図書館の有無／理由 問41：スポーツをする頻度／理由
⑩人権・男女平等について	問42：基本的人権の尊重 問43：身の回りの男女平等状況 問44：『男は仕事 女は家庭』の考え方
⑪商業・産業について	問45：購買地調査 問46：農産物の購入目安 問47：商業・産業の振興
⑫全般的なまちづくりについて	問48：施策の満足度 問49：力を入れるべき施策
⑬属性（フェイスシート）	（1）性別 （2）年齢 （3）職業 （4）居住年数 （5）居住地域
⑭市政意見	・自由記入

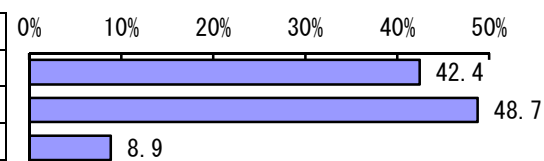
4 報告書をみる際の注意

- ・各設問の集計は、すべて単純集計、属性別（フェイスシート）クロス集計を行いました。
- ・比率はすべて百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出します。したがって、合計が100.0%にならない場合があります。
- ・図表中の「n」とは、集計対象者総数（または分類別の該当対象者数）を示し、比率は「n」を100.0%として算出しました。
- ・グラフ中の選択肢は意味を損なわない程度に省略した表現を用いていることがあります。
- ・問の中には「～を選んだ方にお伺いします。」などいろいろな制限があり、また、回答者が少なく、有意性の低いものも含まれます。

Ⅱ. 対象者の基本属性

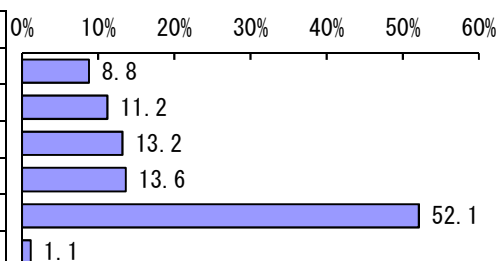
1 性別

属性（1）性別	n	%
男性	599	42.4
女性	688	48.7
無回答	125	8.9
全体	1,412	100.0



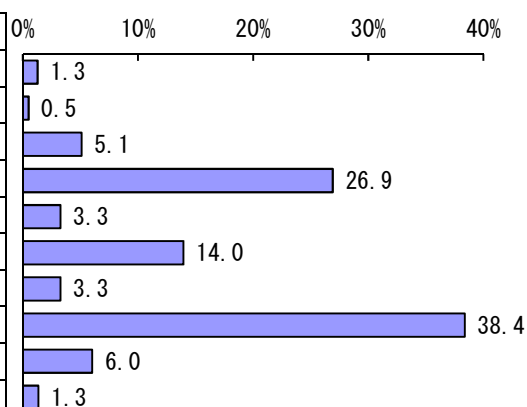
2 年齢

属性（2）年齢	n	%
18～29 歳	124	8.8
30～39 歳	158	11.2
40～49 歳	186	13.2
50～59 歳	192	13.6
60 歳以上	736	52.1
無回答	16	1.1
全体	1,412	100.0



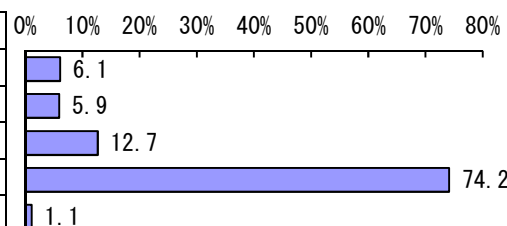
3 職業

属性（3）職業	n	%
農業	18	1.3
商工業	7	0.5
自営業	72	5.1
会社員	380	26.9
公務員	46	3.3
パート・アルバイト	197	14.0
学生	46	3.3
無職	542	38.4
その他	85	6.0
無回答	19	1.3
全体	1,412	100.0



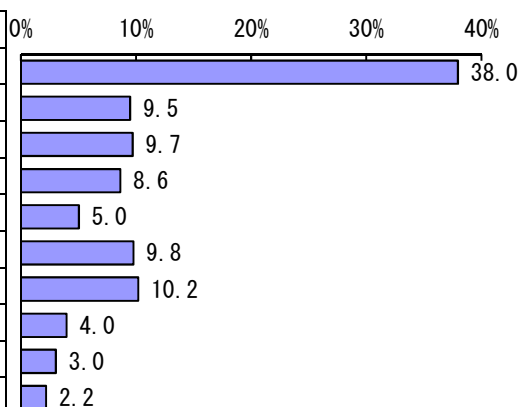
4 居住年数

属性（4）居住年数	n	%
5年未満	86	6.1
5年以上 10年未満	84	5.9
10年以上 20年未満	179	12.7
20年以上	1047	74.2
無回答	16	1.1
全体	1,412	100.0



5 居住地区

属性（5）居住地区	n	%
羽生	536	38.0
新郷	134	9.5
須影	137	9.7
岩瀬	122	8.6
川俣	71	5.0
井泉	138	9.8
手子林	144	10.2
三田ヶ谷	56	4.0
村君	43	3.0
無回答	31	2.2
全体	1,412	100.0



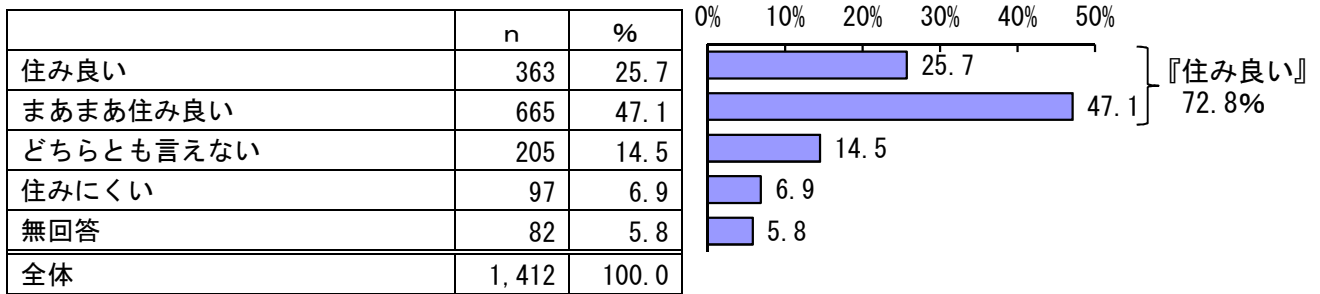
Ⅲ. 調査結果の概要

1 市の住み心地について

問：羽生市の住み心地はいかがですか。【1つに〇】

○現在の羽生市の住み心地については、「まあまあ住み良い」が47.1%と最も高く、次いで「住み良い」が25.7%と続いており、二つ合わせた『住み良い』は72.8%と7割を超えています。

■住み心地

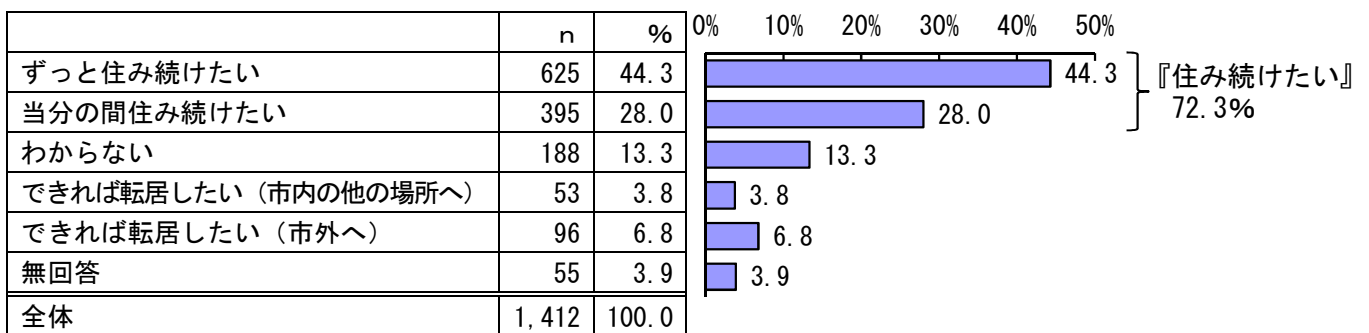


問：現在の場所に住み続けたいと思いますか。【1つに〇】

○定住意向については、「ずっと住み続けたい」が44.3%と4割を超えており、「当分の間住み続けたい」(28.0%)と合わせた『住み続けたい』は72.3%と7割を超えて、地域の定住意向は高い傾向にあります。

○「できれば転居したい(市外へ)」は6.8%となっています。

■定住意向



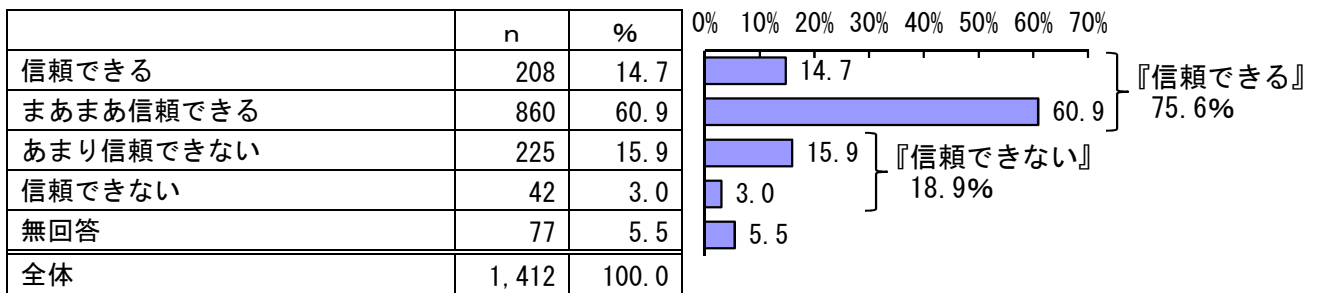
2 市の取り組みなどについて

問：市政や市役所の職員に、どのような印象をお持ちですか。【項目ごとにそれぞれ1つに○】

- 市政や市役所の職員に対する印象については、(1) 市政への信頼度は「信頼できる」と「まあまあ信頼できる」を合わせた『信頼できる』が75.6%と7割半ばを超えています。
- (2) 市政の進展度は「進んでいる」と「まあまあ進んでいる」を合わせた『進んでいる』が50.1%と半数を占めていますが、「あまり進んでいない」と「遅れている」を合わせた『進んでいない』は43.6%と4割を超えています。
- (3) 窓口対応の親切さは「親切である」と「まあまあ親切である」を合わせた『親切』が85.3%と8割半ばを占めています。

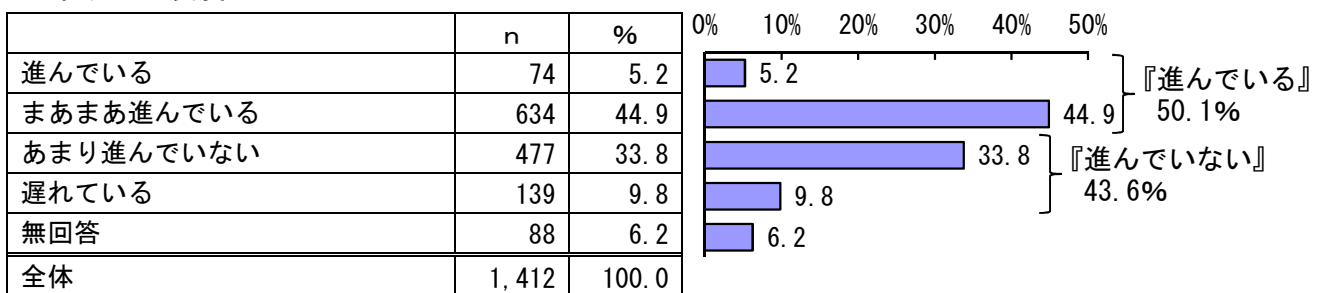
(1) 市政への信頼度

■ 市政への信頼度



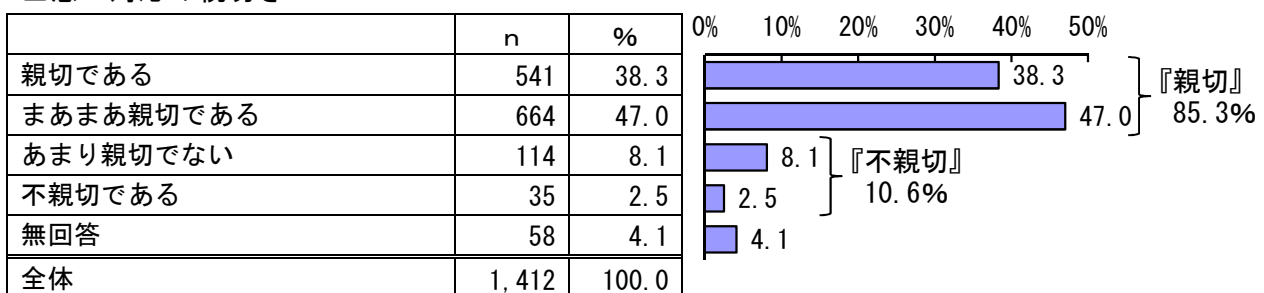
(2) 市政の進展度

■ 市政の進展度



(3) 窓口対応の親切さ

■ 窓口対応の親切さ



○ 市政や市役所に対する印象（イメージ）を一様に評価するため、各項目の4段階評価を加重平均によって点数化して、プラスとマイナスのイメージで表すことにしました。

※ 市政・市役所に対する印象（イメージ）の評価点の算出方法

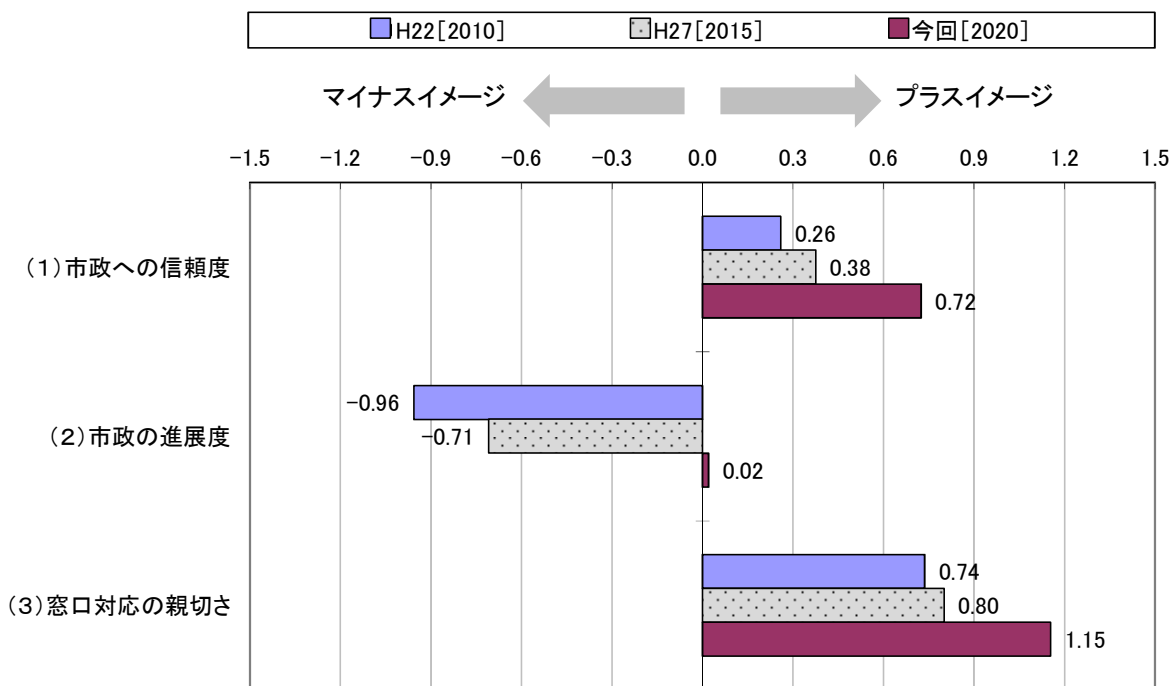
例) (1) 市政への信頼度

$$\left[\begin{array}{l} \text{「信頼できる」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「まあまあ信頼できる」の回答者数} \times 1 \text{点} \\ + \text{「あまり信頼できない」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「信頼できない」の回答者数} \times -2 \text{点} \end{array} \right] \div \left[\begin{array}{l} \text{「信頼できる」「まあまあ信頼できる」「あまり信頼できない」「信頼できない」の回答者数} \end{array} \right] = \text{評価点}$$

※ H22 [2010] と H27 [2015] は「どちらともいえない」を除いて算出しました。

○ プラスイメージの評価点は、(3) 窓口対応の親切さが 1.15 と最も高く、(1) 市政への信頼度が 0.72、(2) 市政の進展度が 0.02 と続いており、いずれの項目もプラスとなっています。

○ 過去調査と比較すると、すべての項目でイメージが上がっており、特に市政の進展度の評価点はプラス転換しています。

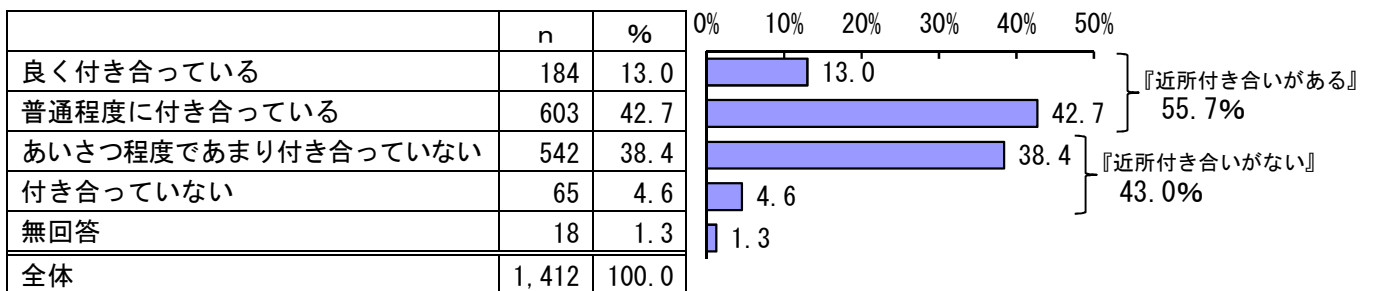


3 コミュニティについて

問：ご近所の方との付き合いについて伺います。【1つに〇】

- 近所付き合いについては、「普通程度に付き合っている」が42.7%と最も高く、これと「良く付き合っている」（13.0%）を合わせた『近所付き合いがある』は55.7%と5割半ばを超えています。
- 「あいさつ程度でありあまり付き合っていない」（38.4%）と「付き合っていない」（4.6%）を合わせた『近所付き合いがない』は43.0%と4割を超えています。

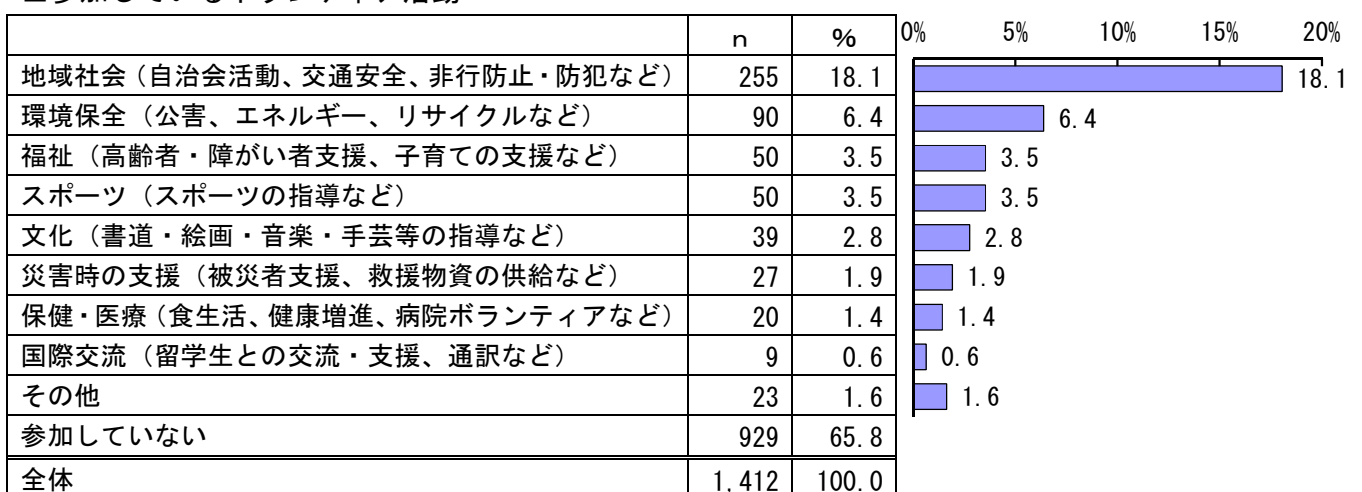
■近所付き合い



問：どのようなボランティア活動に参加していますか。【いくつでも〇】

- ボランティア活動については、「参加していない」が65.8%と最も高く、6割半ばを占めています。
- ボランティア活動の内容については、「地域社会（自治会活動、交通安全、非行防止・防犯など）」が18.1%と最も高く、次いで「環境保全（公害、エネルギー、リサイクルなど）」（6.4%）、「福祉（高齢者・障がい者支援、子育ての支援など）」「スポーツ（スポーツの指導など）」（3.5%）が続いています。

■参加しているボランティア活動

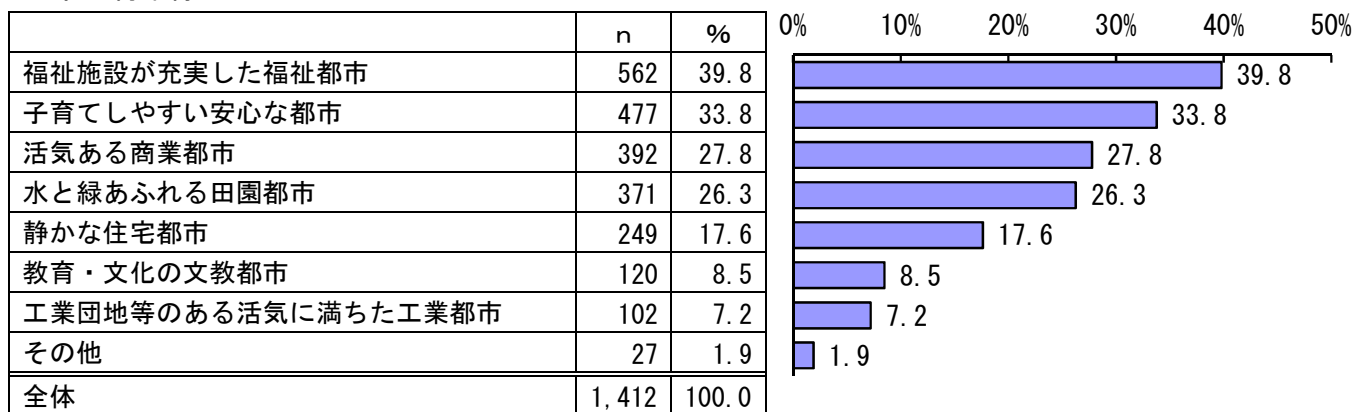


4 市の将来像について

問：将来羽生市がどのような都市になったら良いと思いますか。【2つまで○】

○羽生市の将来像については、「福祉施設が充実した福祉都市」が39.8%と4割近くで最も高く、次いで「子育てしやすい安心な都市」(33.8%)、「活気あふれる商業都市」(27.8%)が続いています。

■市の将来像



問：5年後、10年後の羽生市について、「こんな施設があればいいな」「こんな羽生市になれば安心して暮らせる」など、自由なアイデアをお書きください。【自由記入】

○464人の方から586件の意見を下表の13項目に分類しました。

○「医療・福祉」に関する項目が117件と最も多く、次いで「公園・公共施設」(98件)、「商業施設・娯楽施設」(89件)と続いています。

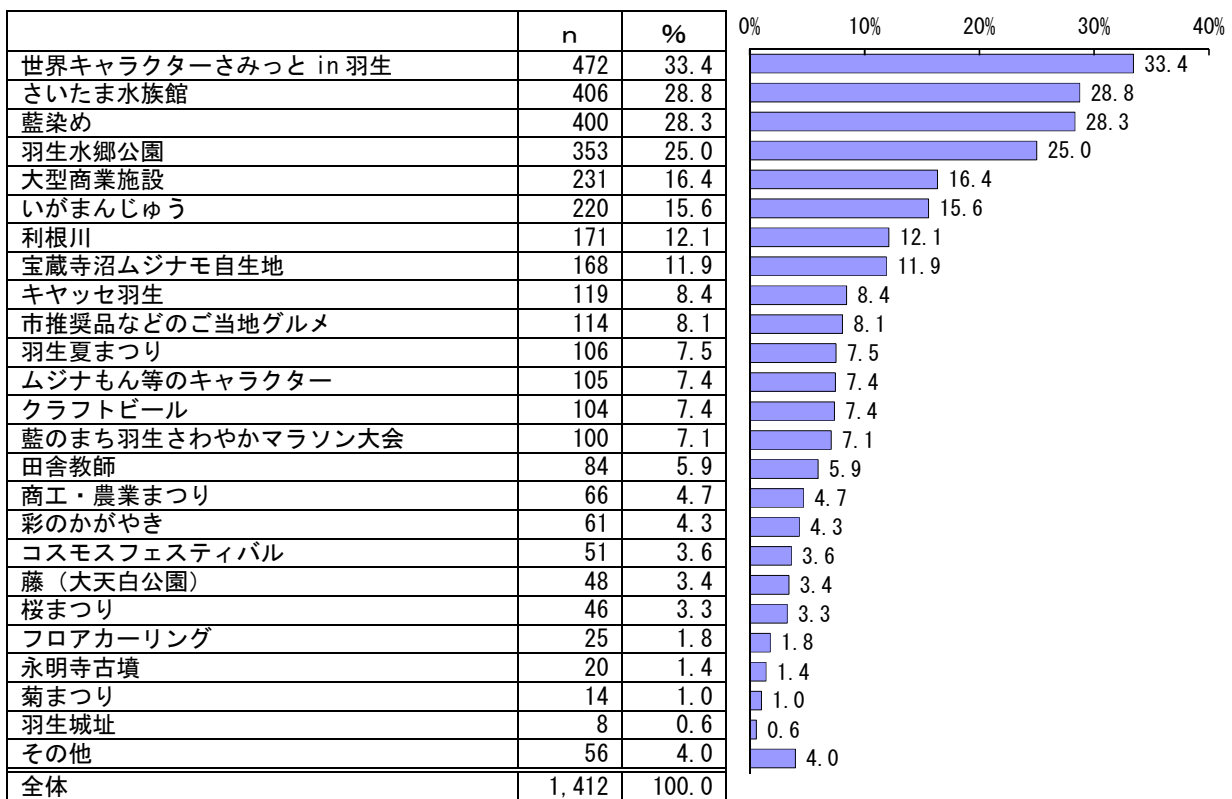
分類		件数
1	医療・福祉	117
2	公園・公共施設	98
3	商業施設・娯楽施設	89
4	開発・整備	53
5	まちづくり全般	46
6	防災・防犯	39
7	移動・交通	38
8	市への要望・提案	36
9	学校・教育	8
10	雇用・企業誘致	8
11	ゴミ収集	4
12	イベント	3
13	その他	19
合計		586

5 市の特徴について

問：羽生市は、観光交流人口100万人を目指しています。次の地場産品、施設、イベントの中で、羽生市を全国にPRするために有効だと思いますか。【3つまで〇】

- 全国PRに有効なものについては、「世界キャラクターさみっと in 羽生」が33.4%と3割を超えて最も高く、次いで「さいたま水族館」（28.8%）、「藍染め」（28.3%）、「羽生水郷公園」（25.0%）、「大型商業施設」（16.4%）、「いがまんじゅう」（15.6%）、「利根川」（12.1%）が続いています。
- 上位項目をみると、イベント、施設、名所、名物、キャラクターなど、多様な分野のものが選ばれています。

■全国PRに有効なもの



問：羽生市の中で好きな場所や景色をお書きください。【自由記入】

- 600人の方から644件の意見を下表の7項目に分類しました。
- 最も多く挙げられた場所は「利根川」で、次いで「羽生水郷公園」「イオンモール羽生」となっています。

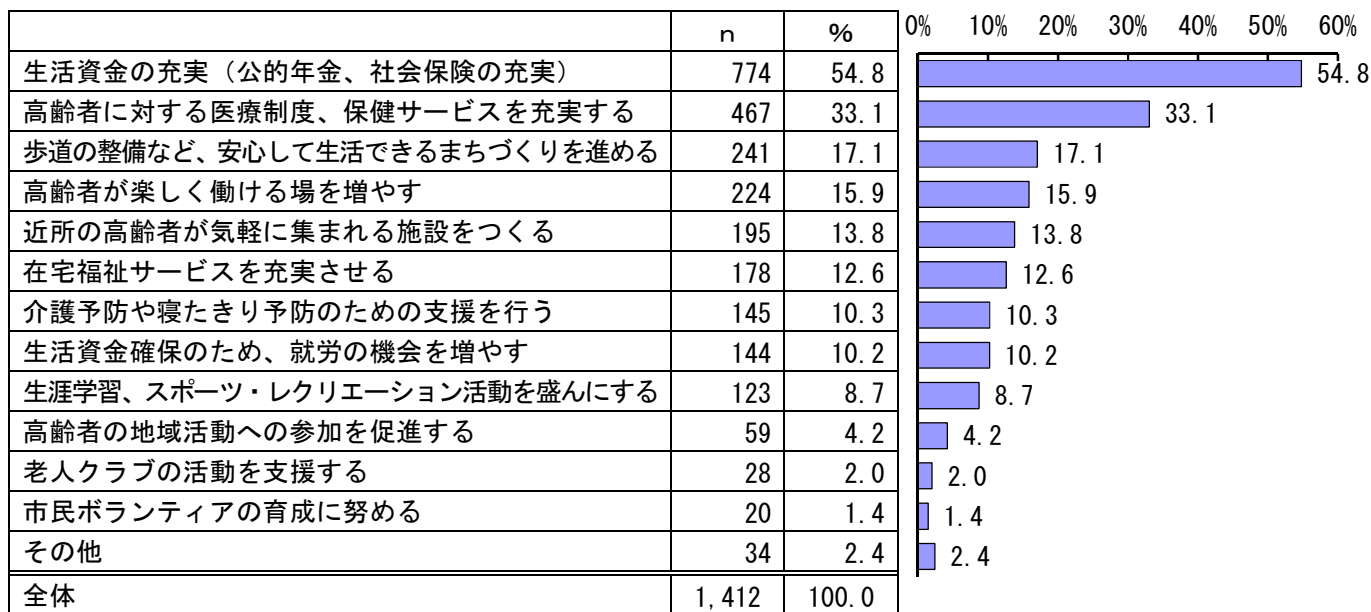
分類	件数	分類	件数
1 川・橋・水路	223	5 商業施設	58
2 公園	186	6 イベント・祭り	7
3 土地・自然・風景	94	7 神社	4
4 公共施設	72		
		合計	644

6 福祉・リサイクル・交通について

問：高齢化が進む中、幸せで生きがいのある老後を送るために、何が大切だと思いますか。

○生きがいのある老後のために大切なものについては、「生活資金の充実（公的年金、社会保険の充実）」が54.8%と5割半ばで最も高く、次いで「高齢者に対する医療制度、保健サービスを充実する」（33.1%）、「歩道の整備など、安心して生活できるまちづくりを進める」（17.1%）が続いています。

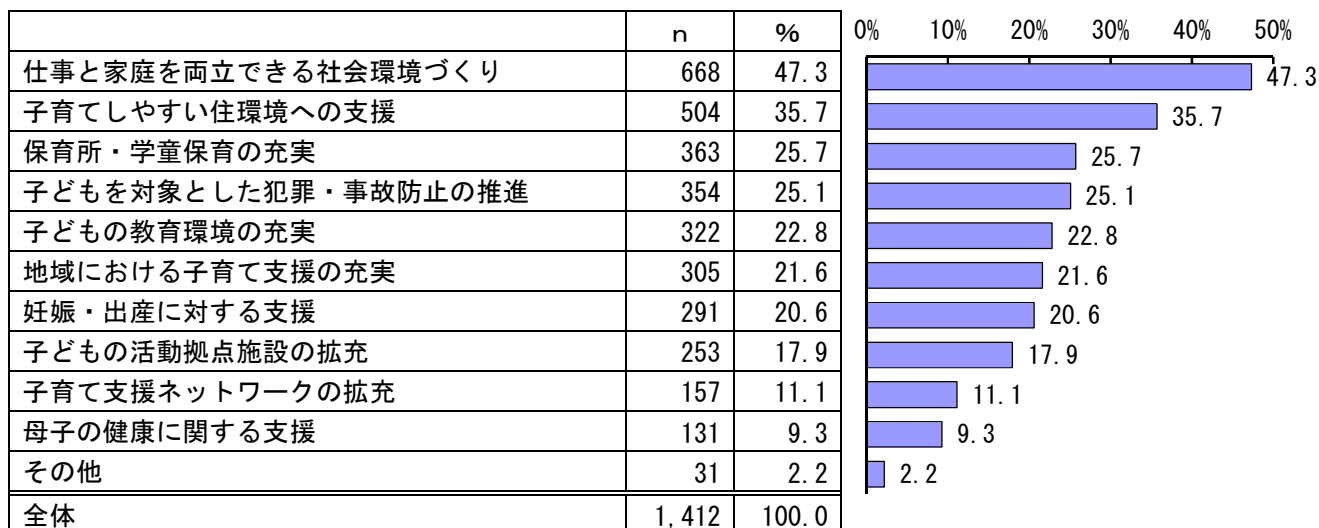
■生きがいのある老後



問：市の子育て支援に期待することは何ですか。【3つまで○】

○市の子育て支援に期待することは、「仕事と家庭を両立できる社会環境づくり」が47.3%と最も高く、次いで「子育てしやすい住環境への支援」（35.7%）、「保育所・学童保育の充実」（25.7%）、「子どもを対象とした犯罪・事故防止の推進」（25.1%）と続いています。

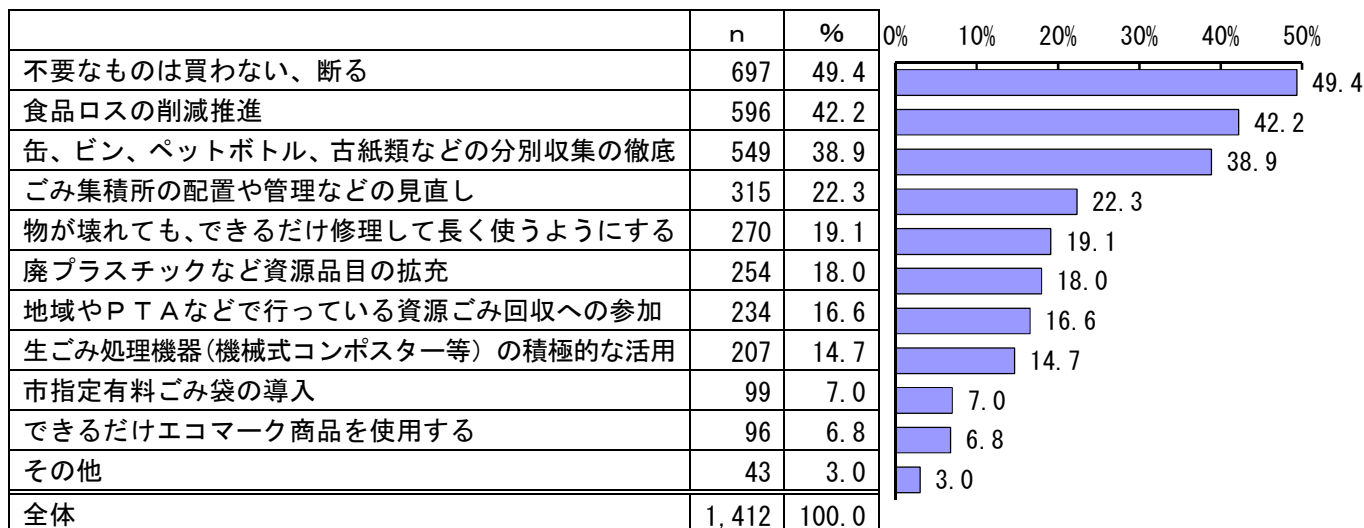
■子育て支援に期待すること



問：ごみに関する課題の一つとして、家庭ごみを減らすには、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまで〇】

○家庭ごみ削減に必要なことは、「不要なものを買わない、断る」が49.4%と半数を占めて最も高く、次いで「食品ロスの削減推進」(42.2%)、「缶、ビン、ペットボトル、古紙類などの分別収集の徹底」(38.9%)と続いています。

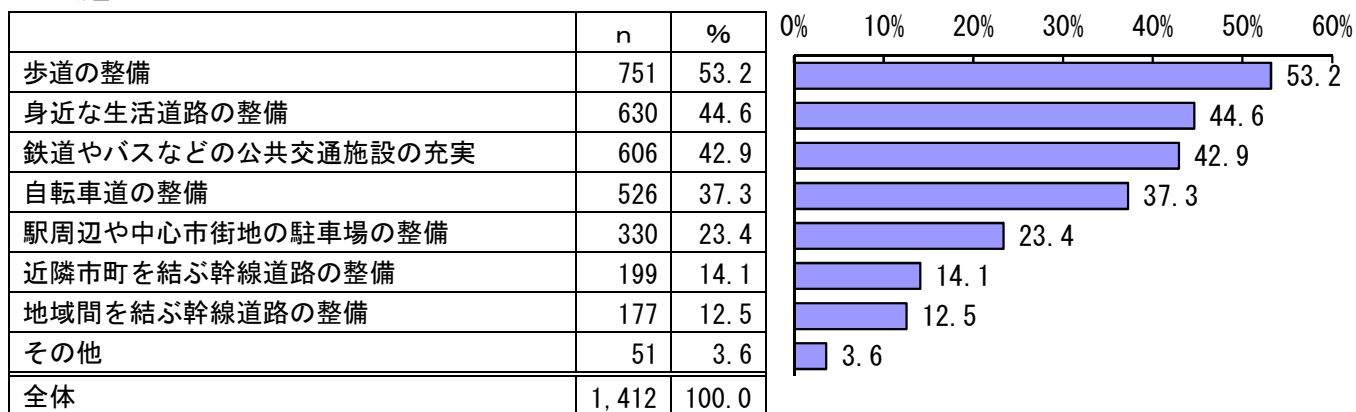
■家庭ごみ削減に必要なこと



問：羽生市の交通について、必要だと思うものは何ですか。【3つまで〇】

○市の交通に必要なものについては、「歩道の整備」が53.2%と半数を超えて最も高く、「身近な生活道路の整備」(44.6%)、「鉄道やバスなどの公共交通施設の充実」(42.9%)が4割を超えて続いています。

■交通

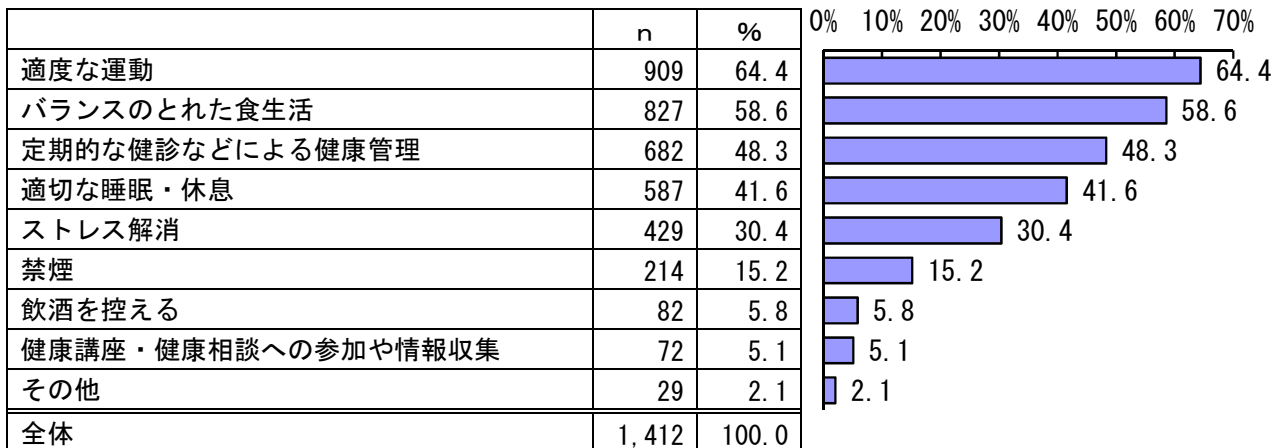


7 医療・防災・防犯について

問：市の国民健康保険における一人当たりの医療費は、増加傾向です。医療費の増加を抑え、健康でいきいきと暮らすためには、何が大切だと思いますか。【3つまで○】

○医療費の増加を抑え健康に暮らすためには、「適度な運動」が64.4%と6割を超えて最も高く、次いで「バランスのとれた食生活」(58.6%)、「定期的な健診などによる健康管理」(48.3%)が続いています。

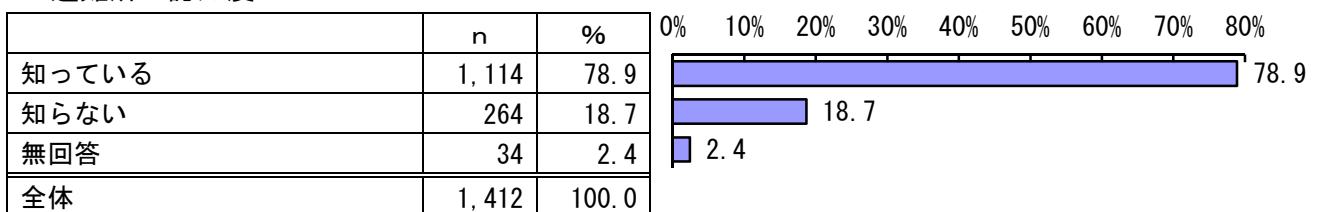
■医療費



問：震災・水害時の避難所をご存じですか。【1つに○】

○震災・水害時の避難所については、「知っている」が78.9%と8割近くを占めています。一方、「知らない」は18.7%となっています。

■避難所の認知度

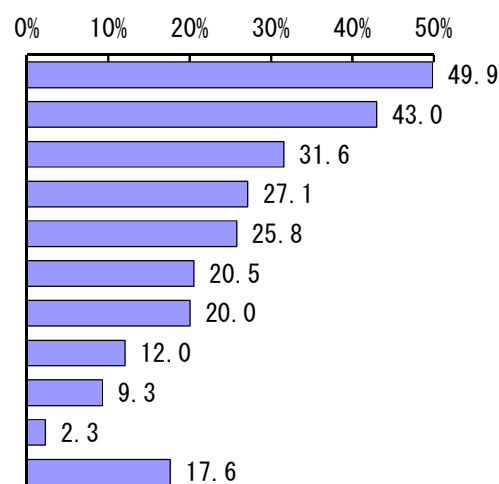


問：震災や水害などの災害時に備えてどのような準備をしていますか。【いくつでも○】

- 災害時の備えについては、「避難所の確認」が49.9%と5割近くで最も高く、「携帯ラジオ、懐中電灯、衣料品などの準備」(43.0%)、「非常用食料の備蓄」(31.6%)、「新型コロナウイルス感染症に対応した避難準備」(27.1%)が続いています。
- 「特に準備していない」は17.6%となっています。

■災害時の備え

	n	%
避難所の確認	704	49.9
携帯ラジオ、懐中電灯、衣料品などの準備	607	43.0
非常用食料の備蓄	446	31.6
新型コロナウイルス感染症に対応した避難準備	383	27.1
家族との連絡方法の確認	364	25.8
浴槽での水の溜め置き	290	20.5
家具などの転倒防止	283	20.0
防災訓練に参加	170	12.0
非常持ち出し用衣類・毛布・貴重品等の準備	131	9.3
ブロック塀などの補強	32	2.3
特に準備していない	249	17.6
無回答	34	2.4
全体	1,412	100.0

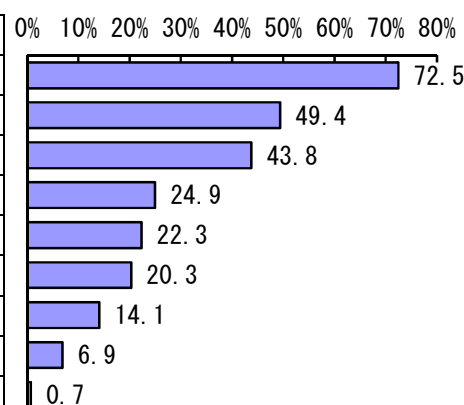


問：身の回りで起きる犯罪を防止するために、どのようなことが必要だと思いますか。【3つまで○】

- 犯罪を防止するために必要なことについては、「防犯灯や街路灯を増設する」が72.5%と7割を超えて最も高く、次いで「市街地などに防犯カメラを取り付ける」(49.4%)、「警察のパトロールを多くする」(43.8%)、「近所のつながりを深め、犯罪に強い地域をつくる」(24.9%)と続いています。

■犯罪防止策

	n	%
防犯灯や街路灯を増設する	1,023	72.5
市街地などに防犯カメラを取り付ける	697	49.4
警察のパトロールを多くする	618	43.8
近所のつながりを深め、犯罪に強い地域をつくる	352	24.9
道路や塀などを見通しが良くなるよう工夫する	315	22.3
犯罪情報を提供する	287	20.3
市や自治会が、地域の問題として防犯に積極的に取り組む	199	14.1
地域の人たちでパトロールなど防犯活動をする	97	6.9
その他	10	0.7
全体	1,412	100.0

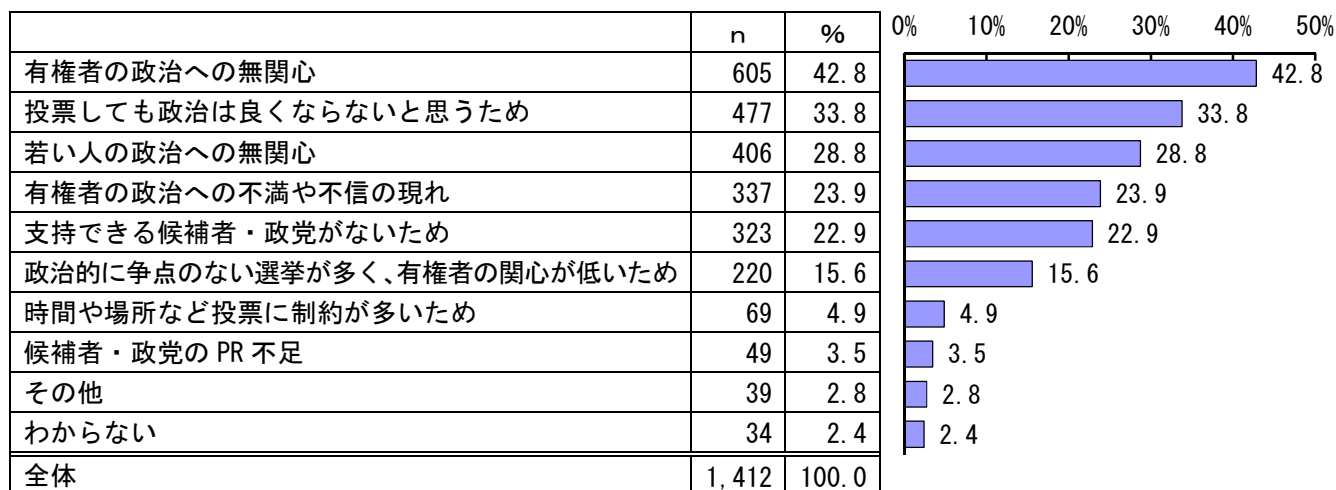


8 選挙について

問：最近、選挙の投票率の低い状態が続いています。その理由は何だと思えますか。【2つまで○】

○投票率が低い理由については、「有権者の政治への無関心」が42.8%と4割を超えて最も高く、次いで「投票しても政治は良くなれないと思うため」(33.8%)、「若い人の政治への無関心」(28.8%)と続いています。

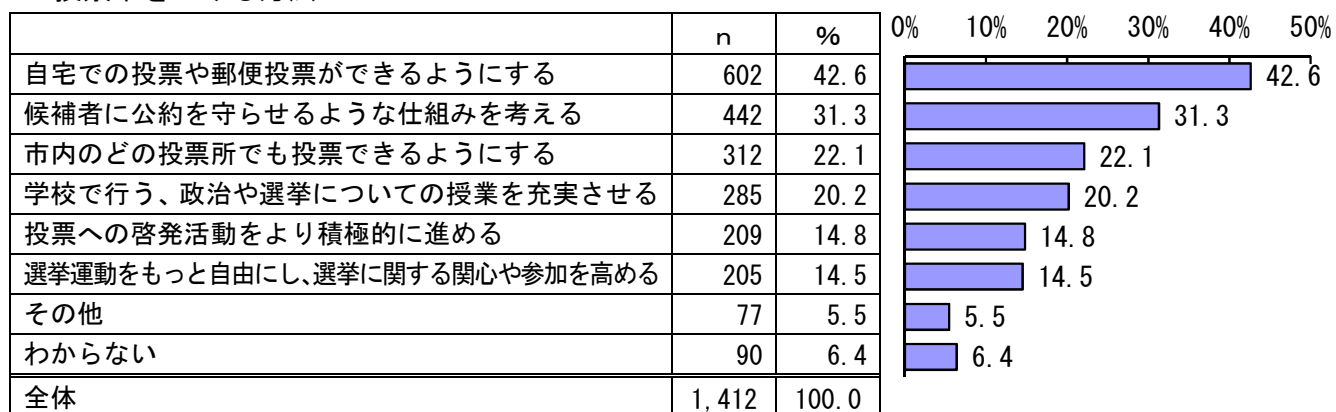
問 35 投票率の低い理由



問：選挙の投票率を上げるためにはどのような方法が良いと思えますか。【2つまで○】

○投票率を上げる方法については、「自宅での投票や郵便投票ができるようにする」が42.6%と4割を超えて最も高く、次いで「候補者に公約を守らせるような仕組みを考える」(31.3%)が続いています。

■投票率を上げる方法

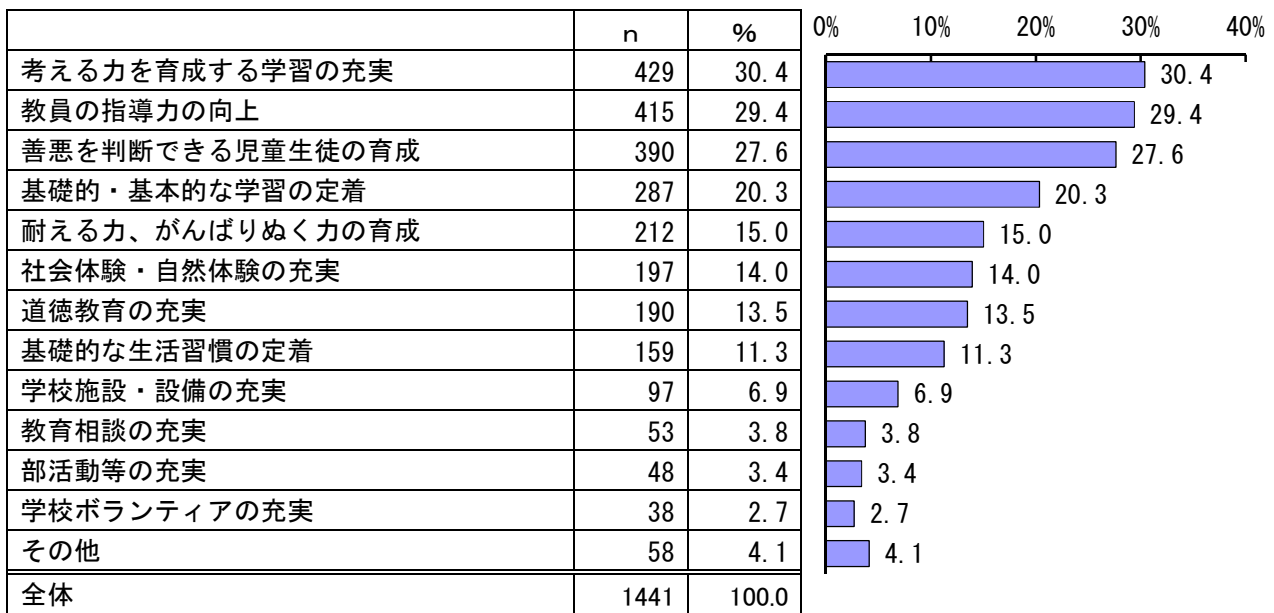


9 教育・スポーツについて

問：羽生市の学校教育をさらに行き届いたものにするためには、特に何に力を注ぐべきだと思いますか。
【2つまで○】

○学校教育で特に力を注ぐべき項目については、「考える力を育成する学習の充実」が30.4%と3割に達し最も高く、「教員の指導力の向上」(29.4%)、「善悪を判断できる児童生徒の育成」(27.6%)と続いています。

■学校教育について

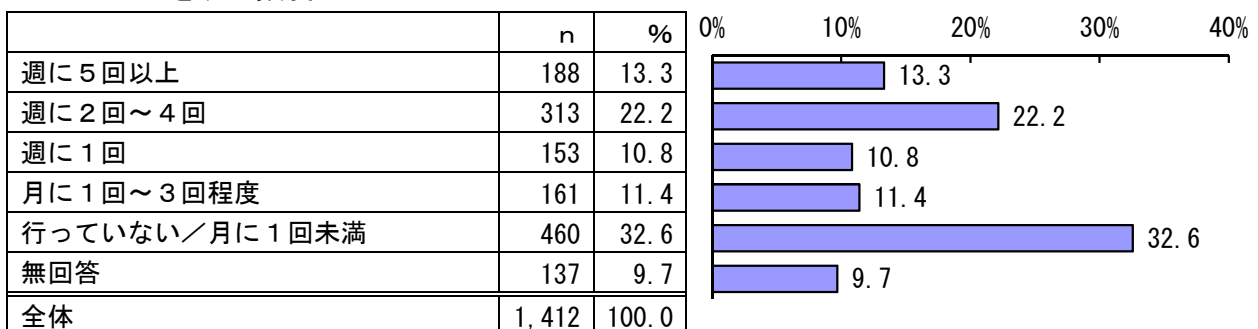


問：どれ位の頻度でスポーツ活動（ウォーキングや体操を含む）を行っていますか。【1つに○】

○スポーツをする頻度については、「行っていない／月に1回未満」が32.6%と3割を超えて最も高くなっています。

○定期的にスポーツを行っている人の中では「週に2回～4回」が22.2%と最も高く、次いで「週5回以上」(13.3%)が続いています。

■スポーツをする頻度



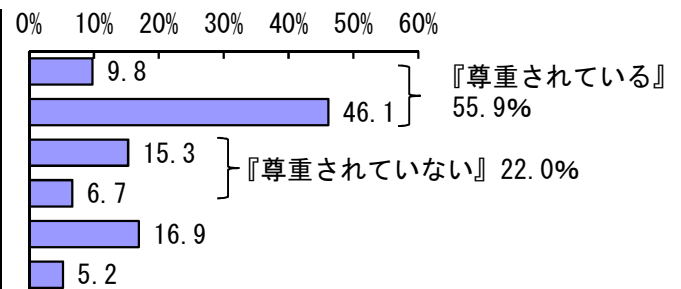
10 人権・男女平等について

問42：「人権」は、誰もが生まれながらに持っている権利であり、幸せに生きるためになくってはならないものです。今の社会で基本的人権が尊重されていると思いますか。【1つに○】

- 基本的人権の尊重については、「どちらかといえば尊重されている」が46.1%と最も高く、これに「尊重されている」(9.8%)を合わせた『尊重されている』は55.9%と5割半ばを占めています。
- 『尊重されていない』は22.0%と2割を超えています。

問 42 基本的人権の尊重

	n	%
尊重されている	138	9.8
どちらかといえば尊重されている	651	46.1
どちらかといえば尊重されていない	216	15.3
尊重されていない	94	6.7
わからない	239	16.9
無回答	74	5.2
全体	1,412	100.0

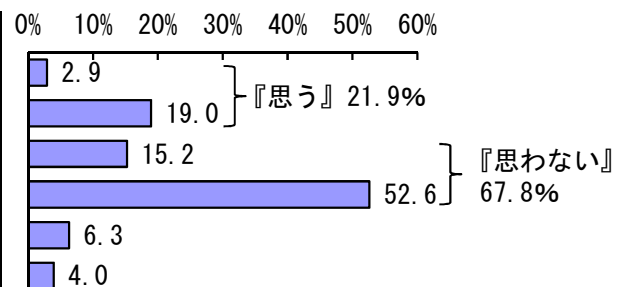


問：『男は仕事、女は家庭』という考え方についてどう思いますか。【1つに○】

- 『男は仕事、女は家庭』という考え方については、「そう思わない」が52.6%と半数を超えて最も高く、「どちらかといえばそう思わない」(15.2%)と合わせた『思わない』は67.8%と6割半ばを超えています。
- 「どちらかといえばそう思う」は19.0%と2割近くを占めており、「その通りだと思う」(2.9%)と合わせた『思う』は21.9%と2割を超えています。

■『男は仕事、女は家庭』の考え方

	n	%
その通りだと思う	41	2.9
どちらかといえばそう思う	268	19.0
どちらかといえばそう思わない	215	15.2
そう思わない	743	52.6
わからない	89	6.3
無回答	56	4.0
全体	1,412	100.0

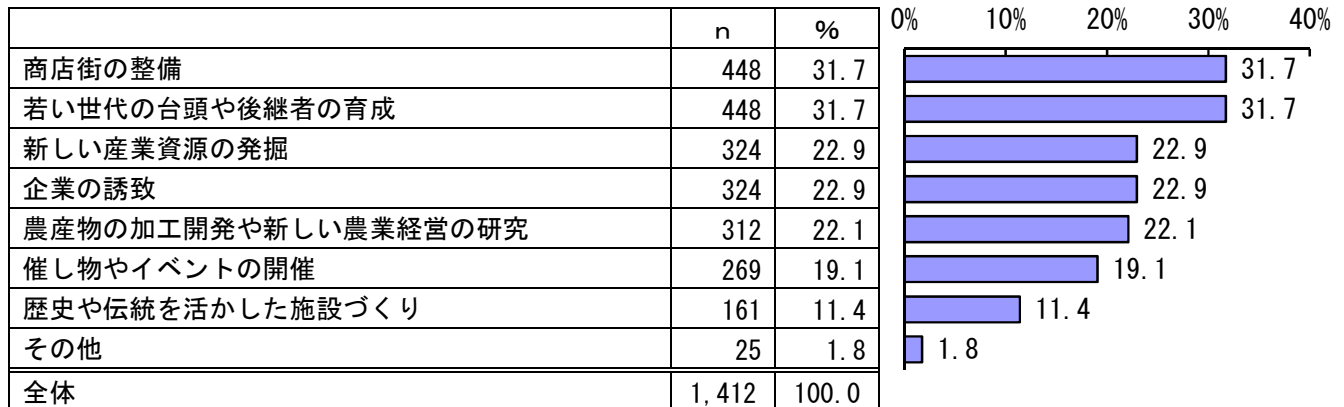


11 商業・産業について

問：市の商業や産業の振興について何が重要だと思いますか。【2つまで○】

- 商業や産業の振興において重要なことについては、「商店街の整備」と「若い世代の台頭や後継者の育成」がともに 31.7%と3割を超えて最も高く、次いで「新しい産業資源の発掘」と「企業の誘致」（ともに 22.9%）が続いています。

■商業・産業の振興



12 全般的なまちづくりについて

問：市政に対し、以下の各項目についてどう感じていますか。【項目ごとにそれぞれ1つに○】

- 各施策にどの程度満足しているかを尋ねたところ、「満足」及び「まあまあ満足」を合わせた『満足』は「消防・救急・救助体制の充実」が 25.6%と最も高くなっています。
- 「やや不満足」及び「不満足」を合わせた『不満足』は「空き家・空き地対策の推進」が 39.2%と最も高くなっています。
- 施策の満足度を一様に評価するため、各項目の5段階評価を下記の算出方法を用い、加重平均によって点数化して満足度を表しました。値がプラスになるほど満足感、マイナスになるほど不満足感が強いということになります。

※施策満足度の評価点の算出方法

$$\left[\begin{array}{l} \text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 1 \\ \text{点} + \text{「普通」の回答者数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満足」の回答} \\ \text{者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満足」の回答者数} \times -2 \text{点} \end{array} \right] \div \left[\begin{array}{l} \text{「満足」「やや満足」「普通」「やや不満足」「不満足」の回答者数} \end{array} \right] = \text{評価点}$$

- 満足度の評価が最も高い施策は「消防・救急・救助体制の充実」(0.22)、満足度の評価が最も低い施策は「空き家・空き地対策の推進」(-0.73点)となっています。

【施策の満足度の割合と評価点】

			満足	まあまあ満足	普通	やや不満足	不満足	わからない	無回答	評価点
まちをつくる 地域とともに生きる	市民協働・参画の推進	n %	22 1.6	95 6.7	709 ③ 50.2	55 3.9	30 2.1	387 27.4	114 8.1	③ 0.03
	コミュニティ支援	n %	23 1.6	96 6.8	675 47.8	101 7.2	25 1.8	375 26.6	117 8.3	-0.01
	都市交流・国際交流の推進	n %	18 1.3	77 5.5	590 41.8	106 7.5	46 3.3	455 32.2	120 8.5	-0.10
	文化の継承・振興	n %	15 1.1	97 6.9	673 47.7	94 6.7	40 2.8	369 26.1	124 8.8	-0.05
	人権施策の推進	n %	17 1.2	81 5.7	665 47.1	74 5.2	34 2.4	422 29.9	119 8.4	-0.03
	男女共同参画の推進	n %	18 1.3	85 6.0	638 45.2	81 5.7	37 2.6	437 30.9	116 8.2	-0.04
まちをつくる 子どもを育て学びを高める	子育て支援の推進	n %	27 1.9	167 11.8	615 43.6	108 7.6	54 3.8	308 21.8	133 9.4	0.01
	家庭教育の充実	n %	26 1.8	103 7.3	665 47.1	102 7.2	37 2.6	345 24.4	134 9.5	-0.02
	義務教育の充実	n %	45 3.2	143 10.1	683 48.4	86 6.1	30 2.1	293 20.8	132 9.3	② 0.09
	高等教育機関等との連携	n %	21 1.5	87 6.2	608 43.1	118 8.4	41 2.9	403 28.5	134 9.5	-0.08
	生涯学習の推進	n %	27 1.9	116 8.2	632 44.8	100 7.1	39 2.8	368 26.1	130 9.2	-0.01
まちをつくる 元気で助け合える	地域福祉の推進	n %	23 1.6	146 10.3	657 46.5	125 8.9	44 3.1	290 20.5	127 9.0	-0.02
	障がい者支援の推進	n %	19 1.3	115 8.1	598 42.4	138 9.8	56 4.0	364 25.8	122 8.6	-0.10
	高齢者支援の推進	n %	22 1.6	146 10.3	596 42.2	174 12.3	61 4.3	293 20.8	120 8.5	-0.11
	健康づくりの推進	n %	27 1.9	166 11.8	687 48.7	94 6.7	53 3.8	264 18.7	121 8.6	0.02
	生涯スポーツの振興	n %	22 1.6	128 9.1	677 47.9	95 6.7	47 3.3	319 22.6	124 8.8	-0.02
	社会保障の適正運用	n %	15 1.1	81 5.7	613 43.4	141 10.0	68 4.8	369 26.1	125 8.9	-0.18
まちをつくる いのちと暮らしを守る	防災対策の推進	n %	33 2.3	174 12.3	694 49.2	133 9.4	54 3.8	191 13.5	133 9.4	0.00
	消防・救急・救助体制の充実	n %	70 ① 5.0	292 ① 20.7	618 43.8	111 7.9	35 2.5	166 11.8	120 8.5	① 0.22
	地域医療の充実	n %	50 ② 3.5	256 ② 18.1	576 40.8	192 13.6	71 5.0	140 9.9	127 9.0	0.02
	防犯対策の推進	n %	26 1.8	131 9.3	696 49.3	170 12.0	66 4.7	192 13.6	131 9.3	-0.11
	交通安全対策の推進	n %	32 2.3	154 10.9	714 ② 50.6	155 11.0	55 3.9	179 12.7	123 8.7	-0.04
	消費者行政の推進	n %	18 1.3	81 5.7	693 49.1	123 8.7	37 2.6	333 23.6	127 9.0	-0.08

※第1位～第3位を①～③で記しています。

			満足	まあまあ満足	普通	やや不満足	不満足	わからない	無回答	評価点
まちをつくる 活気と魅力のある	農業の振興	n	21	104	599	139	56	360	133	-0.11
		%	1.5	7.4	42.4	9.8	4.0	25.5	9.4	
	商工業の振興	n	29	148	566	168	66	307	128	-0.10
		%	2.1	10.5	40.1	11.9	4.7	21.7	9.1	
	観光の振興	n	15	79	530	248	99	310	131	-0.35
		%	1.1	5.6	37.5	17.6	7.0	22.0	9.3	
まちをつくる インフラを整え生活を支える	勤労者支援・雇用の促進	n	16	45	561	218	86	349	137	-0.34
		%	1.1	3.2	39.7	15.4	6.1	24.7	9.7	
	企業誘致の推進	n	32	139	510	156	80	364	131	-0.12
		%	2.3	9.8	36.1	11.0	5.7	25.8	9.3	
	シティプロモーションの推進	n	12	48	534	133	62	475	148	-0.23
		%	0.8	3.4	37.8	9.4	4.4	33.6	10.5	
まちをつくる きれいで自然を感じる	市街地等の整備	n	28	170	586	267	129	113	119	-0.25
		%	2.0	12.0	41.5	18.9	9.1	8.0	8.4	
	道路の整備	n	26	165	533	313	188	77	110	-0.39
		%	1.8	11.7	37.7	③ 22.2	13.3	5.5	7.8	
	移動手段の確保	n	16	99	526	316	230	106	119	-0.54
	%	1.1	7.0	37.3	② 22.4	① 16.3	7.5	8.4		
まちをつくる 健全な経営で自律する	上水道の整備	n	48	176	659	151	137	125	116	-0.13
		%	3.4	12.5	46.7	10.7	9.7	8.9	8.2	
	公園・緑地の整備	n	43	190	623	240	99	101	116	-0.14
		%	3.0	③ 13.5	44.1	17.0	7.0	7.2	8.2	
	下水道の整備	n	43	129	588	209	190	136	117	-0.32
	%	3.0	9.1	41.6	14.8	③ 13.5	9.6	8.3		
まちをつくる きれいで自然を感じる	ごみ処理の適正化	n	48	180	669	207	95	105	108	-0.10
		%	③ 3.4	12.7	47.4	14.7	6.7	7.4	7.6	
	環境保全の推進	n	20	108	757	134	54	217	122	-0.09
		%	1.4	7.6	① 53.6	9.5	3.8	15.4	8.6	
まちをつくる 健全な経営で自律する	空き家・空き地対策の推進	n	5	42	393	326	227	300	119	-0.73
		%	0.4	3.0	27.8	① 23.1	② 16.1	21.2	8.4	
	危機管理の充実	n	5	53	597	163	58	399	137	-0.25
		%	0.4	3.8	42.3	11.5	4.1	28.3	9.7	
まちをつくる 健全な経営で自律する	持続可能な財政運営	n	8	50	513	199	87	423	132	-0.36
		%	0.6	3.5	36.3	14.1	6.2	30.0	9.3	
	開かれた市政の推進	n	14	67	589	148	75	388	131	-0.23
		%	1.0	4.7	41.7	10.5	5.3	27.5	9.3	
まちをつくる 健全な経営で自律する	行政経営の効率化	n	9	43	532	166	82	447	133	-0.32
		%	0.6	3.0	37.7	11.8	5.8	31.7	9.4	

※第1位～第3位を①～③で記しています。

問：これからの市政に対して、特に力を入れるべきだと思うものは何ですか。【5つまで〇】

○市政に対して特に力を入れてほしいものについては、「高齢者支援の推進」が32.7%と3割を超えて最も高く、「子育て支援の推進」(26.6%)、「地域医療の充実」(23.9%)、「空き家・空き地対策の推進」(22.2%)が2割を超えて続いています。

【力を入れるべき施策／全体集計】

		全体	
		n	%
地域とともに生きるまちをつくる	市民協働・参画の推進	49	3.5
	コミュニティ支援	61	4.3
	都市交流・国際交流の推進	45	3.2
	文化の継承・振興	72	5.1
	人権施策の推進	24	1.7
	男女共同参画の推進	43	3.0
子どもを育て学びを高めるまちをつくる	子育て支援の推進	375	② 26.6
	家庭教育の充実	59	4.2
	義務教育の充実	101	7.2
	高等教育機関等との連携	38	2.7
	生涯学習の推進	63	4.5
元気で助け合えるまちをつくる	地域福祉の推進	192	13.6
	障がい者支援の推進	126	8.9
	高齢者支援の推進	462	① 32.7
	健康づくりの推進	229	16.2
	生涯スポーツの振興	63	4.5
	社会保障の適正運用	169	12.0
いのちと暮らしを守るまちをつくる	防災対策の推進	200	14.2
	消防・救急・救助体制の充実	151	10.7
	地域医療の充実	337	③ 23.9
	防犯対策の推進	215	15.2
	交通安全対策の推進	74	5.2
	消費者行政の推進	23	1.6

		全体	
		n	%
活気と魅力あるまちをつくる	農業の振興	104	7.4
	商工業の振興	138	9.8
	観光の振興	107	7.6
	勤労者支援・雇用の促進	160	11.3
	企業誘致の推進	190	13.5
	シティプロモーションの推進	33	2.3
	インフラを整え生活を支えるまちをつくる	市街地等の整備	139
道路の整備		270	19.1
移動手段の確保		273	19.3
上水道の整備		59	4.2
公園・緑地の整備		161	11.4
下水道の整備		187	13.2
きれいで自然を感じるまちをつくる	ごみ処理の適正化	167	11.8
	環境保全の推進	51	3.6
	空き家・空き地対策の推進	313	22.2
	危機管理の充実	60	4.2
健全な経営でまちをつくる	持続可能な財政運営	140	9.9
	開かれた市政の推進	71	5.0
	行政経営の効率化	84	5.9

※第1位～第3位を①～③で記しています。

IV. 調査結果のまとめ

1 市の住み心地について

現在の市の住み心地については、「住み良い」(25.7%)と「まあまあ住み良い」(47.1%)を合わせた『住み良い』は72.8%と7割を超えています。「住み良い」割合を過去調査と比べると、調査ごとに増加しています。『住み良い』と思う理由は、「永年住みなれ、愛着がある」(52.2%)が5割を超えて最も多く、「買い物の便が良い」(39.8%)が続いています。一方、「住みにくい」理由として、前回調査と同じく「交通の便が悪い」「都市施設が整っていない」「買い物が不便である」が高くなっています。

また、定住意向については、「ずっと住み続けたい」(44.3%)と「当分の間住み続けたい」(28.0%)を合わせた『住み続けたい』(72.3%)は7割を超えており、過去調査から引き続き地域の定住意向は高い傾向にあります。年齢別にみると、18～29歳では「できれば転居したい(市外へ)」(16.1%)が他の年代よりも高く、主に若年層の定住に向けた施策が求められています。

住み続けるにあたって必要なものについては、「医療施設の充実」(38.2%)、次いで「福祉施設の充実」(31.1%)、「生活道路の整備」(30.0%)が3割台となっており、特に50歳以上の年代で高くなっています。一方、18～29歳では「商業施設の充実」や「アミューズメント施設の充実」といった娯楽施設の充実を求める声が多く、30～39歳では「公園・緑地など広場の整備」、40歳未満では「子育て支援の施設の充実」など、子育てをする環境整備が市への定住に際し求められています。

2. 市の取り組みなどについて

『広報はにゅう』の閲読については、「必ず読む」(52.3%で)と「ときどき読む」(33.3%)を合わせた『読む』(85.6%)は8割半ばを占めています。

また、『ぎかいだより』の閲読については、「必ず読む」(22.5%)と「ときどき読む」(48.7%)を合わせた『読む』(71.2%)は7割を超えていますが、『広報はにゅう』に比べて低い閲読状況となっています。『広報はにゅう』『ぎかいだより』ともに前回調査よりも『読む』割合が高く、市政に対する市民の関心の高さがうかがえます。

「羽生市まちづくり自治基本条例」については、「内容を知っている」が4.3%と前回調査からほぼ変化なく低い割合にとどまっており、情報発信や意識啓発を推進していく必要があります。協働によるまちづくりの1つである市の計画づくりへの参加意向については、『参加したい』(54.7%)が5割半ば近くを占めていますが、過去調査と比べると減少していく傾向にあり、50歳未満の年代では「参加したくない」が『参加したい』を上回っています。市の計画づくりへの参加を促す必要があります。

市の電子申請・届出サービスについては、「知っているが、利用したことはない」(52.8%)が5割を超えていますが、「利用したことがある」は3.9%にとどまっており、利便性や手続き時間短縮などメリットをわかりやすく伝える必要があります。

市政・市役所に対する住民のイメージは、「市政への信頼度」「市政の進展度」「窓口対応の親切さ」のいずれも過去調査を上回って増加傾向にあります。しかし、「市政への信頼度」「窓口対応の親切さ」に比べると「市政の進展度」は『進んでいる』(50.1%)と『進んでいない』(43.6%)割合が近くなっており、着実な市の施策の実行と実行の成果を市民の目にわかりやすく伝え、市政の進展についての理解を図っていく必要があります。

3. コミュニティについて

近所付き合いについては、「良く付き合っている」(13.0%)と「普通程度に付き合っている」(42.7%)を合わせた『近所付き合いがある』(55.7%)は5割半ばを超えていますが、過去調査と比べると調査ごとに下がっていく傾向にあり、特に「普通程度に付き合っている」は前回調査から7.3ポイント下がっています。年齢別にみると40歳未満で『近所付き合いがある』が3割程度と、若い世代の近所付き合いが薄れていることがうかがえます。

行事への参加については、「積極的に参加している」「ときどき参加している」「やむを得ず参加している」を合わせた『参加している』(60.7%)は6割を占めていますが、過去調査と比べると調査ごとに下がっていく傾向にあり、「参加していない」割合は増加傾向にあります。年齢別にみると「参加していない」は18～29歳で8割、30～39歳で6割を超えていることから、若い世代が自治会やコミュニティなど地域と関わりやすい環境を整えていく必要があります。

ボランティア活動については、「特に参加していない」(65.8%)が6割半ばを占めていますが、『参加している』割合は過去調査と比べると最も高く、特に「地域社会(自治会活動、交通安全、非行防止・防犯など)」に関するボランティア活動が前回調査よりも大きく上がっており、特に40歳以上から2割前後と高くなっています。一方、40歳未満では「参加していない」が8割を超えており、若い世代の参加割合は低くなっています。

4. 市の将来像について

市の将来像については、「福祉施設が充実した福祉都市」(39.8%)、「子育てしやすい安心な都市」(33.8%)が3割を超えて高く、福祉の充実が求められています。また、前回調査と比べると「活気ある商業都市」と「水と緑あふれる田園都市」が上がっていることから、経済活動と自然環境の調和した都市像が望まれています。

市の将来像のアイデアについては、「医療・福祉」に関する項目が117件と最も多く、次いで「公園・公共施設」(98件)、「商業施設・娯楽施設」(89件)が続いており、市の将来像に望むことへの具体的な意見が多くなっています。また、水害などの防災や、高齢者の運転免許返納による移動の不安解消などの意見も寄せられています。

5 市の特徴について

全国PRに有効なものについては、「世界キャラクターさみっと in 羽生」(33.4%)が3割を超えて最も高く、次いで「さいたま水族館」(28.8%)、「藍染め」(28.3%)、「羽生水郷公園」(25.0%)、「大型商業施設」(16.4%)、「いがまんじゅう」(15.6%)、「利根川」(12.1%)などイベント、施設、名所、名物、キャラクターなど、多様な分野のものが選ばれています。年齢別でみると、60歳未満のすべての年代で「世界キャラクターさみっと in 羽生」が4割を超えていますが、前回調査に比べると下がっており、「藍染め」「羽生水郷公園」といった伝統的なものや自然環境が見直されています。

市の中で好きな場所や景色については、「利根川」や「葛西用水路」といった水辺やその周囲の環境、近隣の山々を見回せる雄大な風景、生活に根付いた田園風景といった自然環境や、それを利用した公園などが多くの市民に親しまれています。

6 福祉・リサイクル・交通について

生きがいのある老後のために大切なものについては、「生活資金の充実（公的年金、社会保険の充実）」（54.8%）、「高齢者に対する医療制度、保健サービスを充実する」（33.1%）が高くなっており、経済面の支援や福祉サービスの充実が求められています。

市の子育て支援に期待することについては、「仕事と家庭を両立できる社会環境づくり」（47.3%）が最も高く、「子育てしやすい住環境への支援」（35.7%）、「保育所・学童保育の充実」（25.7%）と続いており、前回調査から傾向は変わらず、働きながら子育てができる環境の整備が求められています。また、18～29歳では「妊娠・出産に対する支援」（41.9%）が4割を超えて高く、若い世代が安心して子育てできるよう引き続き支援していく必要があります。

家庭ごみ削減に必要なことについては、「不要なものは買わない、断る」（49.4%）が約半数を占めて最も高く、「食品ロスの削減推進」（42.2%）、「缶、ビン、ペットボトル、古紙類などの分別収集の徹底」（38.9%）と続いており、ごみ削減への市民の意識が高まっていることがうかがえます。

市の交通に必要なものについては、「歩道の整備」（53.2%）と半数を超えて最も高く、次いで「身近な生活道路の整備」（44.6%）、「鉄道やバスなどの公共交通施設の充実」（42.9%）が4割を超えています。過去調査と比べると「歩道の整備」「身近な生活道路の整備」、「自転車道の整備」が前回調査よりも上がっており、身の回りの道路整備に対する要望が高くなってきています。

最終電車時刻の満足度については、「普通である」（40.6%）が4割を占めて最も高く、「満足している」と「まあまあ満足している」を合わせた『満足』（35.7%）は、「やや不満足である」と「不満足である」を合わせた『不満足』（16.3%）を19.4ポイント上回っており、過去調査よりも高くなっています。年齢別では、40歳未満で『不満』が3割前後と高くなっています。

7 医療・防災・防犯について

かかりつけ医・かかりつけ歯科医については、どちらも「決めている」と「総合病院等に行っている」を合わせると7割以上を占めており、市民の多くがかかりつけ医・歯科医や行きつけの病院があることがわかります。一方で、「必要だと思わない」はかかりつけ医・歯科医のどちらも1割を切って低くなっていますが、「必要なので決めたいと思っている」と合わせると2割以上がかかりつけ医・歯科医を持っていません。また、かかりつけ薬局については、「受診する医療機関ごとに近くの薬局を利用している」（64.5%）が6割半ばを占めており、かかりつけ医・歯科医やかかりつけ薬局の必要性の意識啓発を行う必要があります。

医療費の増加を抑え健康に暮らすためには、すべての年代で「適度な運動」と「バランスのとれた食生活」が5割を超えて高く、また40歳未満では「適切な睡眠・休息」が5割を超えるなど、運動・食事・睡眠が健康に不可欠だと考えられています。

健康診断などの受診については、「受診している」（70.8%）が7割を占めており、いずれの年代も6割以上と高くなっています。また、受診していない人の理由として、60歳以上では「普段から医者にかかっている」が高くなっていますが、それ以外の年代では「機会がない」や「忙しい」が高く、健康診断の重要性を啓発していく必要があります。

家屋の耐震状況については、建築基準法新耐震基準の施行[昭和 57 年(1982)年]前に建てられた築後約 40 年になる家屋は 2 割を占めています。また、自宅が地震に対して安全かを知りたい人は、75.1%と 7 割半ばを占めており、住居の安全への関心は高くなっていますが、大規模地震に対する安全性に問題があると分かった場合、持ち家・借家ともに「何もしない」が 2 割を超えています。

住宅用火災警報器については、「設置されていない」(35.6%)が 3 割半ばを占めており、今後も設置の普及促進を図る必要があります。

震災・水害時の避難所については、「知らない」(18.7%)が 2 割を切って前回調査よりも低くなっていますが、引き続き避難所の周知を図る必要があります。また、ハザードマップの「内容を理解している」(29.6%)や、マイ・タイムラインを「作成している」(1.1%)割合を高めるため、防災に関する意識啓発を行う必要があります。

災害時の備えについては、「避難所の確認」(49.9%)、「携帯ラジオ、懐中電灯、衣料品などの準備」(43.0%)、「非常用食料の備蓄」(31.6%)など 3 割を超えています。過去調査と比べると「特に準備していない」は調査ごとに下がっており、災害の備えに対する市民の意識の高まりがみられます。

防犯対策については、「センサーライトの設置」(39.8%)、「ドア、窓の二重ロック化」(35.7%)が 3 割を超えています。また、今回調査からの「振込詐欺に備えた留守番電話等の設定」は 50 歳以上で 3 割を超えており、詐欺対策への意識の高さがうかがえます。

犯罪を防止するために必要なことについては、「防犯灯や街路灯を増設する」(72.5%)と 7 割を超えて最も高く、次いで「市街地などに防犯カメラを取り付ける」(49.4%)、「警察のパトロールを多くする」(43.8%)と、前回調査と同じ順に続いています。一方、「近所のつながりを深め、犯罪に強い地域をつくる」(24.9%)「市や自治会が、地域の問題として防犯に積極的に取り組む」(14.1%)「地域の人たちでパトロールなど防犯活動をする」(6.9%)などの取り組みが下がっている傾向にあります。

8 選挙について

選挙の投票率が低い理由については、「有権者の政治への無関心」(42.8%)、「投票しても政治は良くなると思うため」(33.8%)、「若い人の政治への無関心」(28.8%)といった政治に対する無関心や諦念が強く出ており、投票率を上げるために、「自宅での投票や郵便投票ができるようにする」といった投票方法の検討や「候補者に公約を守らせるような仕組みを考える」といった政治への信頼を取り戻す方策が求められています。

9 教育・スポーツについて

学校の再編については、「再編はやむを得ない」(38.7%)と「再編すべきである」(8.7%)を合わせると再編に肯定的な回答は 47.4%となります。学校再編に肯定的な理由としては、「少子化」が、「再編しない方がよい」理由としては「通学等の問題」が 100 件を超えています。

学校教育で特に力を注ぐべき項目については、「考える力を育成する学習の充実」(30.4%)、「教員の指導力の向上」(29.4%)、「善悪を判断できる児童生徒の育成」(27.6%)などが上位となっています。

学校と地域との連携で望むことについては、「防犯活動など安全のための活動に取り組む」(29.8%)、が約 3 割で最も高く、地域ぐるみで子どもの安全を守る見守りが求められています。

子どもが自宅で読書を楽しめる「おうち図書館」については、「ある」が 65.2%、「ない」が 34.8%となっています。

スポーツをする頻度については、「行っていない／月に1回未満」(32.6%)が3割を超えて最も高くなっています。定期的にスポーツを行っている人の中では「週に2回～4回」(22.2%)、「週5回以上」(13.3%)と続いています。過去調査と比べると「行っていない／月に1回未満」が前回調査より20ポイント下がって、10ポイント近く上がっており、定期的にスポーツや運動をする人が増えています。

スポーツ活動を行っていない理由については「忙しくて時間がないから」(49.1%)が半数近くで最も高く、「身近に適当な場所や施設がないから」(20.0%)、「スポーツが好きではないから」(18.5%)と続いています。年齢別にみると、60歳以上では「健康上の理由」が3割半ばで高く、それ以外の年代では「忙しくて時間がないから」が6割を超えています。

10 人権・男女平等について

基本的人権の尊重については、「尊重されている」と「どちらかといえば尊重されている」を合わせた『尊重されている』(55.9%)は5割半ばを超えています。一方、「どちらかといえば尊重されていない」と「尊重されていない」を合わせた『尊重されていない』(22.0%)は2割を超えており、基本的人権に関する意識啓発や教育を引き続き行っていく必要があります。

身の回りの男女平等状況については、「男性が優遇されている」(11.9%)と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている』(44.0%)は、「女性が優遇されている」及び「どちらかといえば女性が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている』(6.6%)を上回っており、男性の優遇感が高くなっています。また、『男は仕事、女は家庭』という考え方について、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』(64.8%)は6割を超えています。一方、「その通りだと思う」(2.9%)と「どちらかといえばそう思う」(19.0%)を合わせると2割を超えており、今後も男女共同参画を推進する必要があります。

11 商業・産業について

商品の購入場所について、いずれの商品購入も『市内』が5割以上を占め、市民の買い物の多くが市内で賄われていますが、“食料品”が「市内の小売店」で6割を占める以外は「市内の大型店」の割合が高く、「市内の個人商店」の利用は低い状況にあります。

農産物を購入する際の目安については、「新鮮さなどの品質」(56.0%)が5割半ばを超えて最も高く、次いで「国内産または地元産であること」(46.8%)、「値段の安さ」(37.9%)と品質や産地、価格が消費者を引きつけています。また、過去調査と比べると、「国内産または地元産であること」「無農薬や有機栽培など、安全への配慮の観点から」は下がっていく一方で、「値段の安さ」「ブランドや評判、おいしさなど」は上がっていく傾向にあります。

商業や産業の振興において重要なことについては、「商店街の整備」「若い世代の台頭や後継者の育成」がともに31.7%と3割を超えて最も高く、若い人材を育成して市内産業の活性化が求められています。

12 全般的なまちづくりについて

各施策の満足度について、「満足」と「まあまあ満足」を合わせた『満足』は「消防・救急・救助体制の充実」(25.6%)、「地域医療の充実」(21.7%)が2割を超えて高くなっています。

各施策の満足度を加重平均によって点数化すると、「消防・救急・救助体制の充実」「義務教育の充実」「市民協働・参画の推進」の評価が高く、反対に「空き家・空き地対策の推進」「移動手段の確保」「道路の整備」の評価が低くなっています。

市政に対して特に力を入れてほしいものについては、「高齢者支援の推進」(32.7%)が高く、「子育て支援の推進」(26.6%)、「地域医療の充実」(23.9%)、「空き家・空き地対策の推進」(22.2%)、「移動手段の確保」(19.3%)などと続いており、各分野での施策の充実が求められます。

羽生市市民意識調査報告書

【概要版】

令和3年3月

発行：羽生市
編集：羽生市総務部秘書広報課
〒348-8601 埼玉県羽生市東 6-15
TEL：048-561-1121（代表）